

その歴史は、
まちの宝物。

60年の歩み

連綿と止まることなく続いてきた

人々の営みが、まちの歴史を刻んできた。

その一日一日が、私たちの宝物。

まちの日々の歩みを、私たちは忘れない。

未来の新たな歴史を刻んでいくために。